



学生に海外留学をすすめる理由

「大学のグローバル化とは、大学が知の拠点であることを活かし、率先してそうした活動をスタートさせ、地域に広めていくこと。大学はその実践を通して、世界の持続可能性に対する責任を果たしていかねれば」と話すのは、島根大学でグローバル化推進を担当する片岡副学長。「専門的な学びを深めていくと同時に、持続可能な世界をつくるために、さまざまな立場の人々と一緒に考え、行動していく人を育てたい」との思いでグローバル教育を推進。「どの分野を専攻しても、いかに自然環境を守っていくか、いかに不平等をなくしていくか、いかに平和を実現するか、いかに人々の幸せな暮らしを実現するかといったユニバーサルな問題に取り組むことを学んでほしい」と言います。

世界の持続可能性といったユニバーサルな問題に関わるという点では、大学で行う教育はすべてグローバル教育。その中でも島根大学が特に力を入れている

知らない世界を知ると
今よりも自由になれる



副学長
(グローバル化推進担当)
片岡 佳美

のが、学生の海外留学・研修です。情報化が進み、いつでも手元のスマートフォンやPCで世界中の出来事が検索できる時代になったとはいえ、実際に自分の目で見て知ることがやはり重要です。それは、グローバルな問題に取り組む動機づけとなる点でも、また、その人にとつての「世界」を広げ人生を豊かにする点でも意義深いのです。「最近では日本人学生の外国離れや内向き志向がよく指摘されますし、島根大学の学生にも、そうした傾向があるように思うこともあります。円安や物価高で気軽に海外へ出掛けにくくなっていることはあるでしょうが、それでも多くの学生に海外経験をしてほしいと思いますね。」長期留学はもとより数週間の短期海外研修であっても、渡航前と比較し語学力や行動力などが格段に上がり、大きく成長した学生を何人も見てきた片岡副学長は「帰国後さまざまな価値観や考えをもつ人々と積極的に関わり視野を広げていくようになった学生を見ると、海外経験は明らかにコミュニケーション力とか社会人を高めるものだ実感します」と言います。

「知らない世界を新たに知ることとは、今までよりも自由になるということ。そして、新たに知った世界の人たちとつながり友情を育む学生が増えることは、世界が抱えるさまざまな問題の解決にとって、そして平和の実現にとって大切なこと。」そう熱く語る片岡副学長。島根大学は、さまざまな国の大学での交換留学制度や海外研修プログラムを活用し、世界へと飛び出す学生を応援しています。



島根大学では現在、28カ国99の大学・機関と協定を締結。

多くの協定校と交換留学制度を設けており、
世界中の大学で授業を受けることができます。

交換留学をはじめ、短期研修などを合わせると

2023年度に留学や研修で海外に派遣した学生は288人。

グローバルな視点で、専門の学問に取り組む人材を育てています。

<特集1> 島根大学とグローバル化…… 01

グローバルな視点で、未来を切り拓く

<特集2> 鼎談…… 05

独創性豊かな人材が、島根の未来を変えてゆく

SHIMADAI Edge…… 09

島根大学の研究・地域貢献事業紹介

材料エネルギー学部 講師 戸井田さやか

活躍する卒業生…… 11

SHIMADAI NEWS…… 13

SUPPORTERS VOICE…… 15

Let's 広報サポーター…… 16

島根大学支援基金より…… 17

読者プレゼント…… 17



他国を知って自国を理解 国際交流の魅力

カナダ・ニピッシング大学
法文学部言語文化学科
金崎琴乃さん

高校生の頃から「大学で留学したい」と思っていて、大学で留学エージェントの説明会などにも参加して比較・検討し、自分の希望条件に合っていた交換留学制度を選びました。留学先で文化人類学や宗教学、ビジネス基礎などを幅広く学びましたが、特に印象的だったのは先住民族研究です。北米大陸の歴史を踏まえて「多文化主義とは何なのか」を自分の中で再定義することができたと感じています。何となくカナダが好きでカナダに行きたいと思っていた留学前に比べ、カナダがどのような国なのか、文化的側面から知ることができました。また、英語しか使えない環境や、各国から来っていた留学生を通して感じた考え方・文化の違い、大自然の中での生活など勉強以外での学びも多かったです。残り1年の在学期間は、学内の国際交流に積極的に参加するつもりです。そして、卒業後はもう少し海外経験を積み、英語や他言語を使う職業に就きたいと思っています。特に観光業に関心を持つようになったため、地元・大分県や京都などの観光地で働きたいと考えています。



大学の学生団体が主催のヒンドゥー教お祝いごとのイベント「Diwali」へ参加。
(右から2番目が金崎さん)

広く学び、深く知り 新たな創造を掻き立てる

総合理工学部 機械・電気電子工学科から
自然科学研究科 理工学専攻へ進学
ムハマド スハイル ピン アハマド シャリフッディンさん

私が島根大学を選んだ理由は、そのユニークな教育内容にあります。そのひとつが機械・電気・電子工学を統合したプログラムです。多方面から総合的に学ぶことで多くの気づきがありました。また、国内外の学会に参加させてもらいました。学会では、卓越した研究を間近で学び、有名な研究機関の教授や学生と直接交流することで「将来、自分がどのように成長していきたいか、どんな研究者になりたいか」と、自分自身としっかり向き合う貴重な機会を得ることができました。さらに、いくつかの国際交流プログラムにも積極的に参加し、日本の子どもたちに英語を教えたり、自国ならではの文化を大学の仲間や地域の皆さんに紹介したりするなど、多くの異文化交流を図ることもできました。現在は、半導体工学の信頼されるエキスパートを目指し、『JASM』で装置エンジニアをしています。半導体分野を深く追求しながら、留学を通じて培ったコミュニケーション能力や対人スキル、適応力を実社会で活かして、グローバルな環境のなかで貢献できる人材になりたいです。



大学の友人と大山登山へ。素晴らしい景色を楽しみました。
(右から3番目がスハイルさん)

留学制度について

交換留学(派遣)

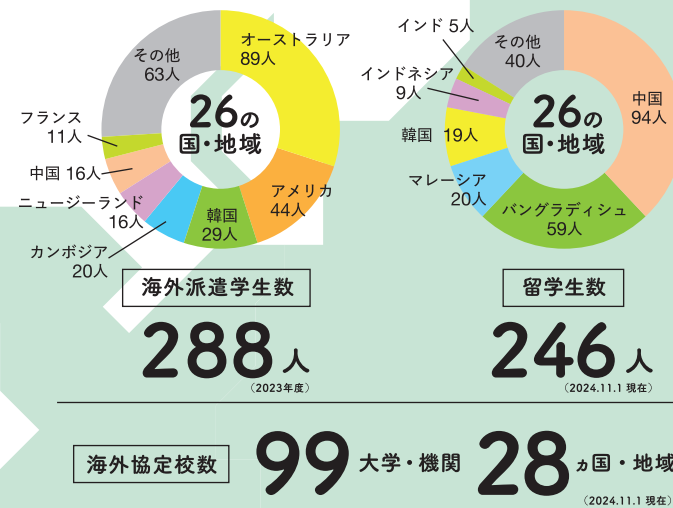
アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、韓国、中国などにある島根大学の海外協定校に島根大学での選考試験を経て、およそ半年または1年間留学する制度です。海外の大学に在学し、その大学の学生と一緒に授業を受けることができます。派遣先の学年層によって留学開始の時期は異なりますが、島根大学へ通常どおり授業料を納付することで、派遣先への授業料は免除となります。休学をせず学したまま留学するため、単位やスケジュール調整次第で修業年限内に卒業できます。

短期海外研修

授業の一環として、夏休み等の長期休暇時期にアメリカ、中国、韓国などでの留学プログラムを多数実施しています。これらの研修は、目的や希望に沿って選べる盛りだくさんの内容になっています。様々な海外経験を通して自らの視野を広げることができ、長期留学へのステップにもなるでしょう。要件を満たせば、単位が付与されたり、大学から奨学金(5万円程度)が支給されるプログラムもあります。

★5月に留学説明会を開催する予定です。
国際センターHPで案内しますので
チェックしてください！

国際センターHPは
こちらから▶



中国での研修で兵馬俑を見る

東京など大都市に比べると外国人と出会う機会が少ないと思われる島根ですが、島根大学のキャンパス内は別です。アジアをはじめ、中南米やアフリカ、ヨーロッパなど様々な地域からの留学生がここで学んでいます。留学生との交流を通して外国に関心をもつ日本人学生も多く、大学では魅力的な海外留学・研修プログラムを用意し、世界を見て学び成長する機会を多くの学生に提供しています。

様々な可能性を追求できる学生のうちに外国へ行き、日本とは異なる文化・価値観に触れ視野を広げることは、とても大切なことです。とはいえ、いきなり長期留学はハードルが高いと思う方も多でしょう。そこで島根大学では、「初めての留学」として、夏休み等を利用して短期間(1週間〜1か月程度)海外に渡航する短期研修を薦めています。語学を習得する、企業でインターンシップを行う、専門分野に関する知識を広げるなど、様々な目的のものがあり、研修先も多岐にわたります。(次頁参照)

留学WEEK・ グローバル月間

大学全体のグローバル化を推進するため、6月に「留学WEEK」、11月に「グローバル月間」と題し、国際交流に関係する各種イベントを集中的に実施しています。

昨年11月に実施したグローバル月間では、留学生との交流会、英語スピーチコンテスト、日本の伝統的な遊びを学ぶワークショップ、外国の文化や歴史を学ぶパネル展、留学体験報告会などが行われ、延べ1500人を超える学生・教職員が参加しました。



グローバルcommonsでの交流
(松江キャンパス)



国際交流スペース e クリニック
(出雲キャンパス)

インドとの交流について

島根大学では、海外の大学や機関とのパートナーシップを積極的に推進しており、特に近年は、経済成長が目覚ましいインドとの連携に力を入れています。

インドはITをはじめ工学系の研究が盛んで、本学では、さくらサイエンスプログラム(外国から優秀な若手人材を招き、国際交流を推進する事業)や中海・宍道湖・大山圏域市長会との連携事業による短期留学生の受け入れ、インドの大学との共同研究などが活発に行われています。

昨年度はインドのペロール工科大学と交流協定を締結し、インドとの交流協定は計7校となりました。今後、活発な研究活動や更なる交流の発展を目指していきます。



インドの伝統的なストリートアート